

高校生の力で未来の農村を盛り上げる！

地域と子ども達の協働による食農教育活動で地域を活性化

なかしべつ
北海道中標津農業高等学校(中標津町)

令和5年度ディスカバー農山漁村の宝コミュニティ・地産地消部門で優秀賞

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 中標津町は、酪農を基幹産業として発展してきた日本有数の農業地帯だが、近年は若者を中心に町民の“農業への関心度の低下”が課題となっている。このような状況の中、農業を学ぶ高校生が、「町へ恩返しできることはないか」と平成18年に食農教育の活動を始めた。
- ◆ 高校生が主体となって子ども達へ指導を行うこと、“日々の授業の学び”と活動がリンクすること、地域の全ての子どもに対して活動を行うことの3点が活動の特徴。
- ◆ 幼稚園児から中学生まで、毎年約200名の子ども達に対して、学年ごとに「酪農管理体験」「生乳を使ったアイスクリーム製造体験」「ばれいしょや小麦など町の特産品の栽培」「ハロウィンかぼちゃ栽培とランタン加工や飾り付け」などの体験教育を行っている。
- ◆ 継続した食農教育によって、子ども達に農業の魅力を伝え、未来の農業を若い力で盛り上げたい！という思いを込め活動している。

【組織等の概要】

- 北海道中標津農業高等学校 校長:篠原 圭
- 生徒数: 104名、教職員数: 30名
- 敷地等面積: 約13ha(畑等実習地 約9ha)
- 乳牛飼養頭数: 8頭
(令和6年7月現在)

【取組の成果】

- 18年間で1,000人以上の子ども達がこの活動に関わり、当時の子どもが現在は地域の担い手として活躍するなど、人材の循環も生まれ、次の世代への継承が実現。
- 食育学校・地域イベントサポーターとして、地域の企業や大人を巻き込み、その数は年々増加し、地域と子ども達の協働による食農教育活動として展開できている。
- 先進的な食育モデルとして高等学校の科目である「フードデザイン」の教科書に掲載されるなど、道内外で注目される活動へと発展、長期的で独自性のある活動として町内外に認められてきている。
- 第5回食育活動表彰 消費・安全局長賞
(2021年:農林水産省)
- 第11回コプさっぽろ農業賞 交流賞学校特別賞
(2021年:コプさっぽろ)
- 「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」(第10回選定) コミュニティ・地産地消部門 優秀賞 特別賞
(2023年:農林水産省)

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- 小・中学校の授業の一環として作業時間を組み入れてもらうことが難しかった。特に、中学校は、受験を前提とした時間割のため難しかった。
- ⇒ 小・中学校の先生と何度も話し合いを重ね、食農教育活動の趣旨や町の基幹産業への想いを理解してもらい時間を確保した。1回の経験が実績となり、その後は順調に時間が確保され継続できるようになった。



400個のカボチャを収穫



カボチャで作ったランタン



【今後の展望】

- 北海道教育大学釧路校や地域の各種団体との協働も進み、幼・小・中・高・大・地域の連携が完成しつつある。現段階では、計根別地域のみで活動しているが、町内の各学校からも共催を望む声があがっているため、より多くの子ども達を対象とすることで、今後は活動の輪を広げ、若い力が主体的に地域農業を盛り上げ、農業を通じ更なる地域の振興・活性化を目指す。